

## 第5学年〇組 道徳学習指導案

平成22年 月 日（〇曜日）第〇時限 場所：5年〇組教室 指導者：吉田 貴章

- 1 主題名 ホタルの舞う里 3－（2）自然愛・環境保全
- 2 主題について

### （1）学級の児童の実態

本校の周辺には、桜の名所である山崎川、モツゴなどの在来種が数多く生息する隼人池、コナラやブナなど多くの木が群生する興正寺など、様々な自然が数多く残っている。都心とはいえ、本校の児童は自然に触れる機会が多い方だと言える。

本学級の児童（24人）の中にも、隼人池で魚を釣ったり、興正寺の森の中で走りまわったりと、幼いころから自然の中で遊ぶ経験をしている児童が数多くいる。そのせいか、学校で自分たちが育てている花や野菜、教室で飼育している生き物などに対して、愛着をもって大切に育てようとする姿が見られる。

また本校では、学校努力点として、身近な自然の様子や自然破壊の実態について学習を進めており、自然に関する児童の関心は高い。そのため、自然保護の大切さについて頭では理解することができている。しかし、自然のことについて考えた授業が終わり、しばらくの間は熱心に環境保護の取り組みを実践するが、長続きしない。これは、「人間も他の生き物も自然の中で共に支え合って生きている存在」という意識が十分育っておらず、自然保護を自分の問題としてとらえていないからだと考える。

### （2）学習内容

近年、二酸化炭素の増加や森林破壊、酸性雨など地球規模での自然破壊が進んでおり、大きな社会問題となっている。これらの問題に対しては、国を超えて取り組む必要があるとされている。児童に早い段階から、自然破壊の実態について関心をもたせると共に、自然保護のために自分たちに何ができるかについて考えさせることが求められている。

私たち人間は、地球に住む多様な生き物の一種に過ぎず、むやみに他の種の「いのち」を奪ったり、環境を破壊したりする権利はまったくない。私たちが快適に生活できるようにするためだけではなく、同じ地球に住む多様な生き物の「いのち」を守るために、どうすべきか考えることは大切である。「人間も動植物も、同じ地球上で暮らす仲間であり、共に支え合い、生きる道を探っていこう」という【共存性・共生性】の視点を児童にもたせたい。

### （3）資料の解釈と取り扱い

本資料は、父に連れられてホタルを見に行った主人公が、ホタルの舞う風景の美しさに心を打たれる。その後、ホタルの生態を知ることによって、自然のすばらしさや自然保護の大切さに気付くというものである。

本時では、三つの場面を取り上げて主人公の気持ちを考えさせたり、自分たちがナゴヤメダカを育ててきた経験を想起させたりすることで、ねらいに迫りたいと考える。

まず、一つ目は、ホタルの群舞を見たときである。ホタルそのものを見たことがな

い児童が多いと思われるため、ビデオを使いホタルの群舞の美しさを見せることで、主人公の気持ちに、より共感させていきたい。

二つ目は、ホタルの生態について父から教えてもらったときである。ホタルが成虫になるまでの苦労と、学級で飼育しているナゴヤメダカを育て、繁殖させる苦労とを対比させることで、ホタルもナゴヤメダカも小さいながらも、一生懸命生きているということに気付かせたい。

そして三つ目は、次の日に家の前の川を見ているときである。生き物（ホタル、ナゴヤメダカなど）の「いのち」を守るためには、自然を守ることが大切であることを、これまでの主人公の考えを振り返らせながらとらえさせたい。

#### (4) 【共存性・共生性】に重点を置いた「関連プログラム」の中での位置づけ

この「関連プログラム」では「自然の中で生きている人間と他の生き物のかかわりについて考えることで、人間も他の生き物も互いに支え合って生きていることに気づき、自然や、他の生き物の『いのち』を大切にしようとする意識を高める。」をねらいとして取り組んでいる。

これまで児童は「『いのち』をありがとう」（総合的な学習の時間）「『いただきます』ということ」（道徳の時間）の学習で、食育として、生き物の「いのち」をいただき、他の生き物に支えられて生きることができているということ学んでいる。また、1学期から続けている「ナゴヤメダカの飼育」は、ナゴヤメダカの「いのち」を守り、育てる活動だという共通認識をしている。さらに、社会科の「わたしたちの生活と工業生産」では、企業がなぜ自然を守る活動をしているのかという話し合いをして、人間は他の生き物の「いのち」をいただき、支えられている一方で、他の生き物の「いのち」を守る活動もしているという考えに至っている。

そこで、これまでの体験活動（総合的な学習の時間、学級活動）や、話し合い活動（社会科）を通して感じてきた「『いのち』は支え、支えられている」という思いを、本時の学習で振り返り、共有し合い、共感し合うことで「関連プログラム」のねらいに迫りたい。

### 3 指導計画（1時間完了）

#### 4 本時の指導

##### (1) 道徳の時間のねらい

生き物が生きていくことの難しさが分かり、自然を大切にしようとする気持ちを高める。 【発言・道徳プリント】

##### 「関連プログラム」における本時のねらい

自然や、他の生き物の「いのち」を大切にしながら、共に生きていこうとする気持ちを高める。 【発言・道徳プリント】

##### (2) 準備

【教師】 ○明るい心5年 ○ホタルの舞う様子を収めた映像  
○場面絵 ○道徳プリント ○ナゴヤメダカ（水槽）

【児童】 ○明るい心5年

##### (3) 関連

4年「わたしのジュリー」 6年「ひとふみ十年」

(4) 指導過程

時間配分	学 習 活 動	教 師 の 発 問	予想される児童の発言や心の動き
5分	1 ナゴヤメダカを飼育してきた体験を振り返り，これまでの活動の感想を発表する。	① このナゴヤメダカを見て，どんなことを思い浮かべますか。	①・わたしたちがナゴヤメダカの「いのち」を守ってきた。 ・これからも頑張っけて育てたい。 ・これからも生き続けてほしい。
21分 (5)	2 資料「ホタルの舞う里」を読んで，主人公の気持ちについて話し合う。		
(4)	(1) ホタルの舞いを見たとき	② ホタルの舞いを見たとき，高子さんはどんなことを思ったでしょう。	②・こんなに美しいものを見たのは生まれて初めて。 ・このまま，ずっと見ていたいなあ。 ・なんてきれいなんだ。 ・また見たい
(4)	(2) ホタルの話を父から聞いたとき	③ ホタルが卵から美しく舞うまでの話を聞いたとき，高子さんはどんなことを考えたでしょう。	③・美しく舞っているが，舞っているのはほんの一部で，成虫になるまでに多くの犠牲が払われているんだ。 ・きれいな川が増えれば，ホタルもたくさん見られるのに。 ・きれいな川でないと，ホタルは住めないんだなあ。

(8)	(3) 家の前を流れる川を見つめているとき	④ 次の日の朝，高子さんは，家の前を流れる川を見つめながら，どんなことを思い浮かべていたでしょう。	④ ・自然を大切にしないといけない。 ・この川にいろいろな生き物が住めるようになるといいなあ。 ・この川をきれいにしたいなあ。 ・この川もホタルが住めるようなきれいな川になるといいなあ。
13分	3 自然を大切にすることは，どういうことか，これまでの学習を振り返り，話し合う。	⑤ みんなにとって，自然を大切にすることは，どういうことですか。	⑤ ・どんな生き物も生きていけるようにすること。 ・生き物の「いのち」を守ること。 ・人間も生き物が生きていけるように努力すること。 ・人間と生き物が一緒に生きていけるような環境にすること。 ・みんなが自然を守ることを考えるようにすること。 ・人間が自分勝手に自然を壊さないこと。 ・環境を守ること。
6分	4 心のノートp.60「生きているんだね 自然とともに」の感想を発表する。	⑥ この詩を聞いて，どんなことを考えましたか。	⑥ ・人間も他の生き物も仲よくしないといけない。 ・自然と人間と生き物はつながっている。 ・人間は自然に生かされている。

指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点 と 方 法
<p style="text-align: center;"><b>【関連】ナゴヤメダカを育てよう（飼育活動）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発問の前に、1学期から飼育してきたナゴヤメダカを提示し「このナゴヤメダカはみんなが一生懸命世話をしたからここにいます。」と声を掛け、ナゴヤメダカの「いのち」を守ってきたという意識を想起できるようにする。</li> <li>○ 発言が出にくければ、児童が書きつづってきたナゴヤメダカの観察記録の内容を読んで想起させる。</li> <li>○ 資料を読む前に、資料中のホタルの写真を使って、ホタルという生き物を具体的に想起させる。また、実際にホタルが舞っている映像を提示し、ホタルが舞う姿に感動した主人公の気持ちに共感させる。【ビデオ映像】</li> <li>○ 資料を読む前に提示した映像を想起させ、ホタルの舞いを見て感動した主人公の気持ちに共感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ナゴヤメダカの飼育の様子を想起することができたか、発言内容や表情からつかむ。</li> <li>○ 生き物が生きていくことの難しさが分かり、自然の大切さを感じ取ることができたか、発言内容からつかむ。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>【関連】ナゴヤメダカを育てよう（飼育活動）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発問前に、ホタルは汚れた川では住めないことを示し、ホタルが生息できる環境について押さえ、ホタルが成虫になるまでの苦勞について理解できるようにする。</li> <li>○ ホタルの幼虫がカワニナを食べて成長することに着目させ、人間と同じように「いのち」をいただいて生きていることを押さえる。</li> <li>○ 児童の発言がある程度出たところで、昔は日本の各地でホタルが見られたことを話したり、ナゴヤメダカの話想起させたりしながら、川の水質汚染が進んでいる現状にも目を向けさせる。</li> </ul>	

- 発問前に p 51の川を見る主人公に吹き出しを付けた絵を提示し、主人公の気持ちを想像しやすいようにする。
- 川やホタルのことについての意見が出た後に、「川に住んでいるのは、ホタルだけかな。」「川とホタルのことだけを考えていたのかな。」などと問いかけ、考える視点を広げさせる。

**【関連】**

- ・「いのち」をありがとう（総合的な学習の時間）
- ・「いただきます」ということ（道徳）
- ・ナゴヤメダカを育てよう（飼育活動）
- ・「わたしたちの生活と工業生産」（社会科）

- 板書した児童の意見を指で追いながら「高子さんは、川を見ながらこういうことを考えたけど、」と言った後、「みんなにとって、自然を大切にすることは、どういうことですか。」と発問し、環境保全について自分のこととして考えられるようにする。
- 道徳プリントに自分の考えを書かせ、考えをまとめたり、深めたりできるようにする。
- 児童の発言の中に「いのち」「自然を守る取り組みや努力」「自然を大切にすること」という言葉が出てきたら、具体的にはどんなことか、発言をした児童だけでなく、他の児童にも投げ掛け、考えを深めるようにする。
- 「生きているんだね 自然とともに」を読み聞かせ、「人間は自然の中に生かされている」という言葉で本時の学習内容に、より深まりをもたせる。
- 本時の感想を道徳プリントに書かせ、発表させることで、本時を振り返り、人間と自然と他の生き物について自分の考えをまとめられるようにする。

- 生き物が生きていくことの難しさが分かり、自然を大切にしようとする気持ちが高まったか、発言内容やプリントへの記述からつかむ。

**【「関連プログラム」における評価】**

- 自然や、他の生き物の「いのち」を大切にしながら共に生きていこうとする気持ちを高めることができたか、発言内容やプリントへの記述からつかむ。

- 自然を大切に、他の生き物と共に生きていこうとする気持ちが高まったか、表情や感想からつかむ。